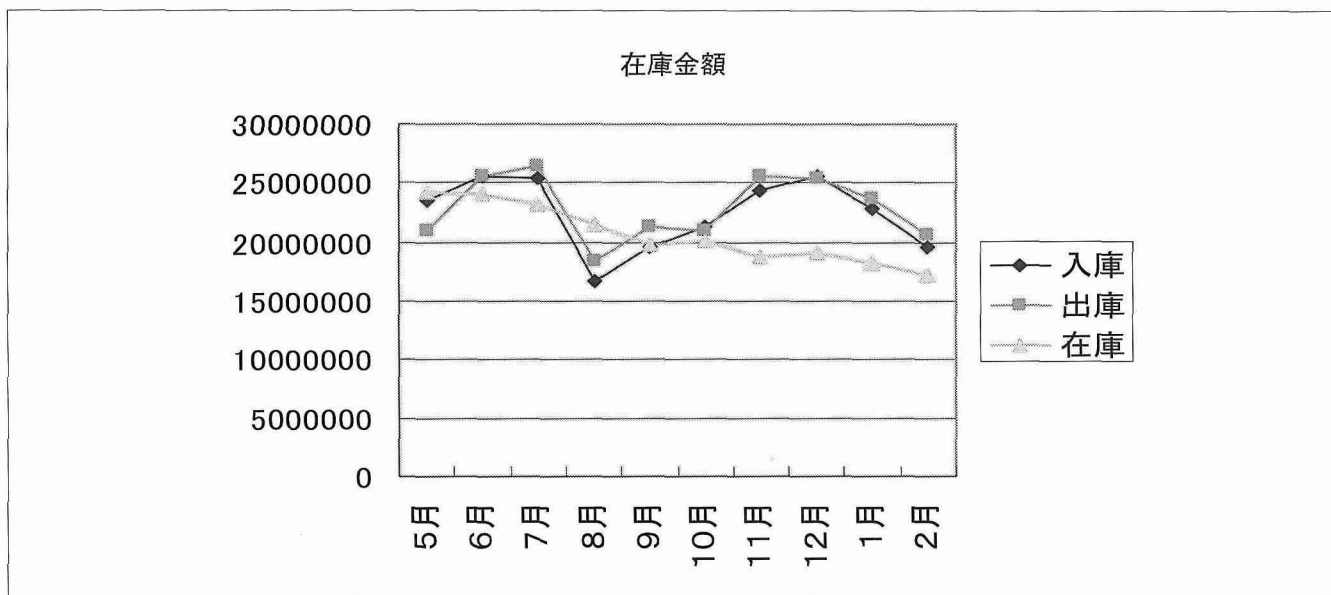


## ■薬事委員会（委員長 工藤 靖夫）

薬事委員会は薬の適正使用を多方面から分析し、有効利用を図るのを目的としています。  
この1年間の活動のコンセプトと活動状況について報告いたします。

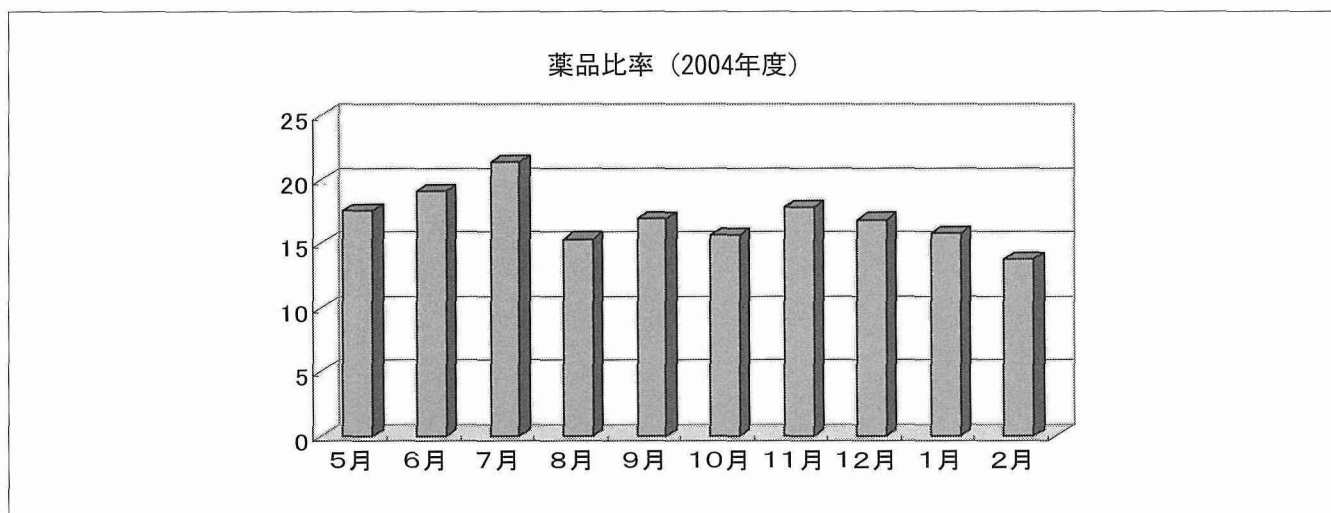
### 1) 在庫管理

この1年間、在庫金額の縮小方法を薬剤部に検討してもらうのと同時に、昨年末には医局会議にて、同効薬の整理をして100品目の採用中止を行いました。その結果、現在採用品目は728となり、適正使用量に近づいていると思われます。在庫金額も着実に低下しており、関係各位の努力の賜物と感謝しております。



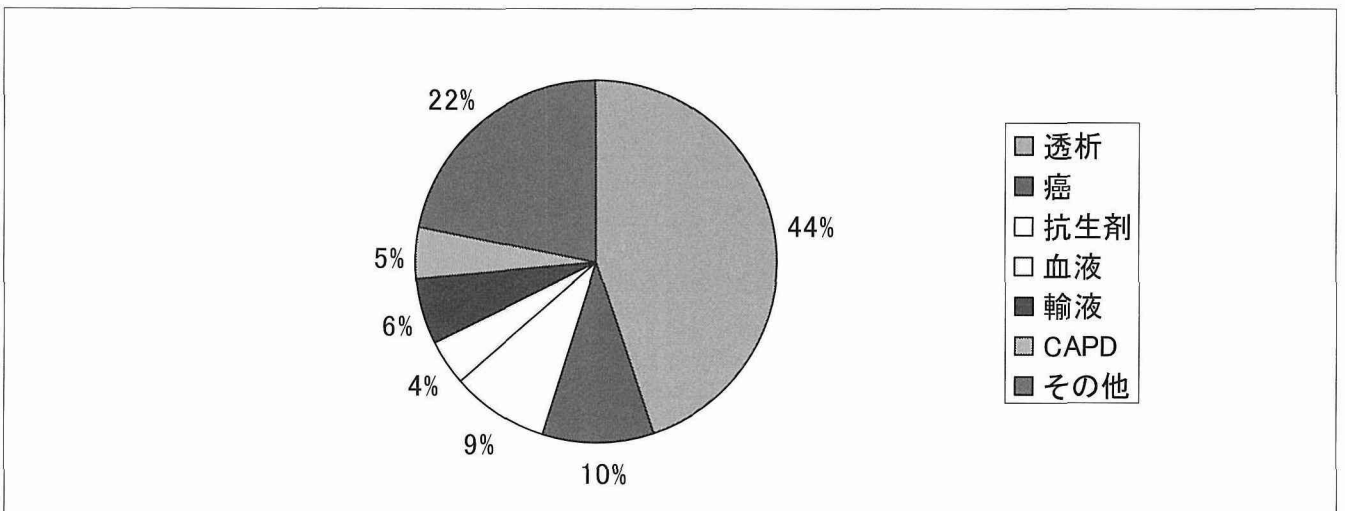
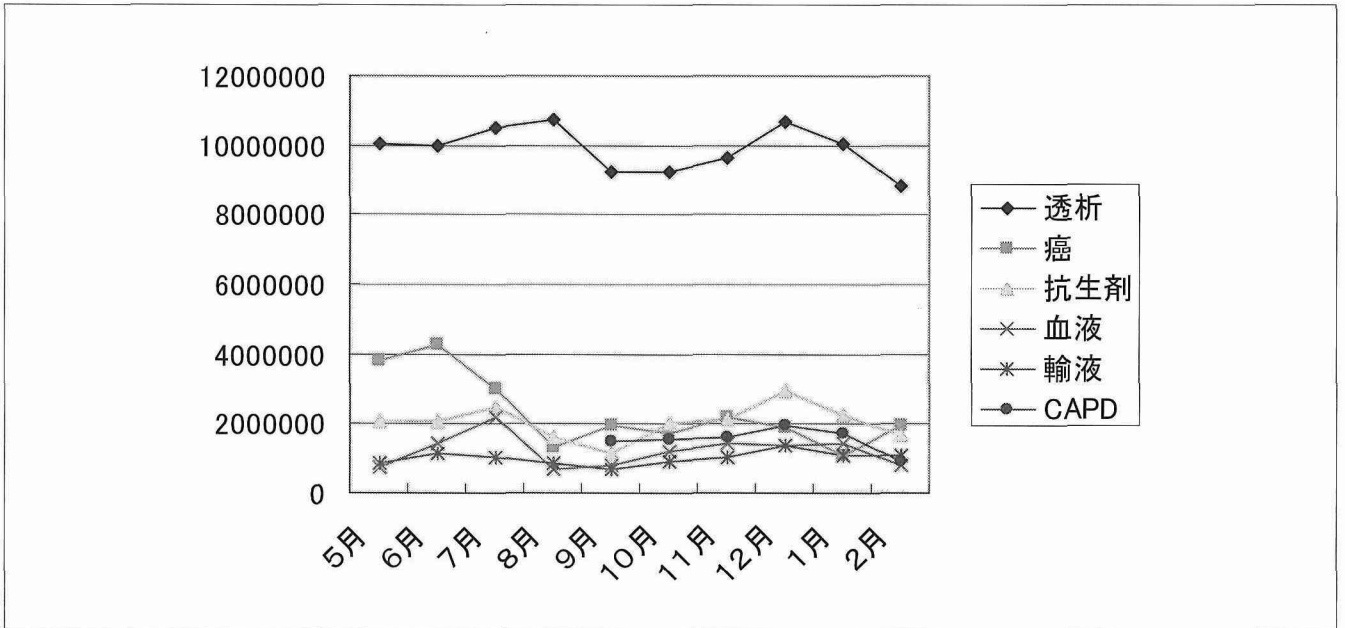
### 2) 病院経費における薬剤費の見直し

当院における薬剤費の総収入に対する比率は、2004年度は平均17%でしたが、この数ヶ月は15%前後と順調に低下してきております。



### 3) 使用薬剤の変化

昨年の上半期は、癌関連の薬剤が比較的多く使われておりましたが、この1年間で大体、当院の薬剤使用種類と量が固定化してきたようです。透析関係の薬剤が約40%強、癌関連の薬剤が10%で、抗生剤・血液製剤・輸液製剤・CAPD関連が各数%となっています。



#### 4) ジェネリック薬の採用について

現在当院では、後発品の使用頻度は37品目（5.1%）となっています。薬事委員会では、ジェネリック薬検討小委員会（後藤先生委員長）を立ち上げて、採用について検討してもらいました。まずは、総薬品数の10%を目標に、薬品採用を行いたいと考えています。今年度は30品目程度の後発品の採用になると思います。

ジェネリック薬の採用による利点としては下記の事が挙げられます。

- ① 患者負担の軽減
- ② 病院薬剤費と在庫額低下による収益率の向上
- ③ 療養病棟対応、また保険請求できない薬剤による病院負担の軽減
- ④ 粉碎のいらぬ溶ける薬剤など種類変更による使いやすさの向上
- ⑤ D P Cへの対応

2005年度 採用後発品			
	先発品	後発品	
1	イオメロン	オイパロミン	注射
2	ジフルカン	フラノス	注射
3	ホスミシン	ホロサイル	注射
4	ペンレス	ユーパッチ	貼付
5	ザンタック	ラデン	内服
6	ザイロリック	アロチーム	内服
7	ナウゼリン	ドンペリドン	内服
8	デパス	エチゾラム	内服
9	アラセナA	シルベラン	軟膏

上記薬剤の変更により、総収入に対する薬剤比率は1%近くの低下が予想されます。今後順次、薬剤の変更があると思いますが、よろしくご協力をお願いいたします。